

平成30年度冬季休業前全校集会 校長講話

明日から冬休みです。先生方からもお話しがあったと思いますが、安全に、そして有意義に過ごしてほしいと思います。

今日は、冬休み中の1月14日が成人の日でもありますので、大人になることってどういうことなんでしょう、という事についてお話しします。皆さんの中にも知っている人もいると思いますが、我が国の民法に規定される成人年齢が、2022年4月1日から、18歳へと引き下げられることになりました。つまり約4年後の成人式には、今の1年生・中3・中2と、例年の3倍の成人式になるということになります。その後は毎年、高校3年生が成人式に招待されるという事になります。

さて皆さんは成人と未成年の差はどこにあると思いますか。「飲酒・喫煙ができる」「選挙権がある」など身近な例が思い浮かぶかもしれません。選挙権はすでに18歳に、また、民法が変わっても飲酒喫煙は20歳以降です。でも、本当に子どもが大人になるってどんなことなのでしょうね。年を重ねることが大人になることなのでしょうか？

私にはこれまで、子どもでなくなる瞬間はあると思ってきました。それは、子どもを作ることができるようになった瞬間です。ただ、子どもでない＝大人とはいえないと思うのです。私もこれまで、大人になることについていろいろ考えてはみましたが、明確な答えは持っていません。ただ、今のところ3つ思いついています。一つは「生産と消費の仕組み（働くことと衣食住の関係）が分かる」2つは「振り返る過去（後悔や秘密）ができる」3つは「失敗も成功も自分の行動を自分で決定する」の3つです。このことを皆さんに押しつけるつもりはありません。あくまで私の考えです。でも皆さんにはぜひ大人になるとはどういうことかを考えつづける人間になってほしいと思っています。どんな状況にあっても、昨日の自分から今日の自分、今日の自分から明日の自分には、何か新しい変化があることを信じて生き続けることこそ、生きる希望です。

そしてもう1つ、他人の生きる希望を奪わない人間になるというのが、4つめの大人になるということなのかも知れないと、最近考えるようになりました。自分の好き嫌いで人を拒絶したり、自分と意見や感覚が違うからといって協力を拒んだり、自分に同調する人間を組織して集団から排除しようとしたりしない人になってほしいのです。

子どもの世界でいわれるいじめは、大人になったらハラスメントと呼ばれます。いじめが学校、ハラスメントは職場や家庭という事ですから、大人の境目は仕事や家庭を持つことかも知れませんね。重ねて言います。皆さんには大人になるとはどういうことかを考え続ける人になってほしい。その中で、多様な考えを受け入れ、許容量の大きな人間になってほしいのです。

そういう意味に於いて、これまで学校教育は許容量の狭い教育を強いていたのかも知れません。18歳成人になると、裁判を起こすことができます。つまり高校では、教職員と同じ人権を持つ生徒が存在することになります。これからは学校の理不尽なきまりや、教職員の不当な扱いについて、自分で裁判を起こす人がでるかも知れません。そう考えると、最も変わらなければならないのは、大人だと勘違いしている大人や、学校教育、社会の在り方なのかも知れません。大人に近づいている皆さんはどう考え、どう行動しますか？成人の日を考えるということでお話ししました。